

第7号

- 巻頭言 宮本 久雄
- アウグスティヌスの聖書解釈をめぐって
——『神の国』からの視点—— 加藤 信朗
- 淵が淵を呼ぶ
——『告白』一三・一三・一四—— 荒井 洋一
- 真理観の転回
——アウグスティヌス懐疑論批判の射程—— 岡部由紀子
- 存在の現成のダイナミズム
——受肉・神人性の教理と愛智との関わり—— 谷 隆一郎
- The Neoplatonic Theme of Return in Eriugena

Édouard JEAUNEAU

第8号

- 巻頭言 小さな神 熊田陽一郎
- アウグスティヌス、『創世記逐語注解』における
靈的被造物の向き直りについて
——アウグスティヌスの「コンウエルシオ」と
プロティノスの「エピストロペー」の比較研究のために——
森 泰男
- アウグスティヌスの記号論 樋笠 勝士
- 青銅の蛇の物語 ——予型論の意義をめぐって—— 柴田 有
- アウグスティヌスとストア哲学
——『問答法について』第六章〈言語起源論〉を中心に——
水落 健治
- ニュッサのグレゴリオスの情念論
——『魂と復活について』を中心に—— 柳澤 田実

ニケアとの出会い——ヒラリウス『三位一体論』と信仰 出村 和彦
My Life-long Adventure with Saint Athanasius

Charles KANNENGIESSER

第4号

- 巻頭言 破黙への教父学 今道 友信
「語りえぬ者」について——フィロンとユスティノス—— 柴田 有
オリゲネスのヨハネ福音書序文（ロゴス賛歌）の解釈
——他のギリシア教父の解釈と比較しつつ—— 小高 毅
オリゲネスにおける解釈学的原理
——『原理論』と『ヨハネによる福音書注解』から—— 久山 道彦
「ギリシア人の剽窃」に関する
アレクサンドリアのクレメンスの見解 久山 宗彦

第5号

- 巻頭言 加藤 武
*διαλεκτική*と*λογική*
——Ammonios Hermeiou, In De Interpretatione,
Prolegomena—— 水落 健治
テルトゥリアヌスの結婚観 木寺 廉太
悪を選択する自由 岡野 昌雄
Augustine's Roman Empire:
Reaching out from Hippo Regius Neil B. McLYNN

第6号

- 巻頭言 受容としての教父研究 柴田 有
古代の二人の歴史記述家：ヨセフスとエウセビオス
——古さをめぐる歴史記述について—— 秦 剛平
エイレナイオスの聖霊論 塩谷 惇子
エペクタシスの道行き 宮本 久雄
Augustine the Bishop in the Light

パトリスティカ既刊号目次

創刊号

- 巻頭言 加藤 信朗
- 隠喩の生成 —Ambrosius, Hymnus I から
Prudentius, Liber Cathemerinon I へ— 加藤 武
- トマス・アクィナスにおける摂理と人間の自由
—『真理論』第二問、第十二項— 渡部 菊郎
- フィロンの聖書解釈の一側面 野町 啓
- アレクサンドリアのクレメンスにおける古典学の変容
—『オデュッセイア』の解釈に向けて— 秋山 学

第2号

- 巻頭言 泉 治典
- アルクイヌスとフレデギスス
—文法学・論理学・神学をめぐって— 清水 哲郎
- ディオニシオス・アレオバギテース『神名論』における
新プラトン派的言語とキリスト教的言語
—『神名論』第二章を中心に— 熊田陽一郎
- 教父研究の現在 今道 友信
- 〈始まり〉の問いとその行方
—「ヘクサメロン」の西と東— 荻野 弘之

第3号

- 巻頭言 K・リーゼンフーバー
- ことばと真理
—アウグスティヌス『教師論』における問題の所在— 中川 純男
- アレイオスとアレイオス主義再考 泉 治典